



市議選の結果を受けて私の反省と決意

4月に実施された袋井市議会議員選挙において多くの皆様からご支援を頂きながら最下位当選者と僅か25票差で落選となりました。ご支持・期待を寄せて頂いた皆様に心からお詫び致します。

正直、私自身この結果をなかなか受け入れることができませんでした。私の活動の何が足りなかったのか自問自答する日々を過ごしました。これまで、人一倍議会活動に一生懸命取り組んできましたし、私の活動を知ってもらうため議会報告にも力を入れてきました。しかし結果が全てであります。

それら私の活動すべてがまだまだ不十分であり、皆様に届いていなかったことを自覚し、これまで以上精進してまいります。議員という肩書はありませんが活動を継続してまいります。捲土重来、次回の市議選での再選を期し取り組んでまいります。

皆様の変わらぬご理解ご支援をお願い致します。

袋井市政レポートの発行について

私なりに市政・市議会の問題点と、地域の情報、市民の声等を取り上げ発行していきます。当面は定例市議会後毎に。不定期となりますがご理解をお願いします。

市議会6月定例会の内容紹介

6月7日から30日まで開催されました。私なりに問題点を取り上げ報告します。

大場規之新袋井市長が所信を表明

6月市議会定例会初日の6月7日、大場規之新袋井市長が所信表明を行いました。原田前市長が進めてきた「日本一健康文化都市」実現の取り組みを継承するとし、「全ての人々が幸せで、笑顔でいられるまちであることを実感できるよう、全身全霊で取り組んでいく」と述べました。

キャッチコピーの「スマイル！」は伝わらない

主要取り組み項目に、産業・経済、子育て・教育、健康・福祉、安全・安心、文化・スポーツ、市役所機能の6つの項目をあげ、それぞれに「スマイル！」の冠を付けていますがその意味が伝わるか疑問です。

大場市長は選挙戦で「スマイルシティふくろい」を呼びかけました。『笑顔』には「幸せを感じた際にそれを周

囲と共有する力だけでなく、困難な時に心に余裕を生み、前を向いて歩みを進める力がある。市民一人一人が安心して将来に希望をもって、日々暮らすことができているかどうかの一つのバロメーターが笑顔である」との説明もありました。しかし、「スマイル」という言葉が市民にそうした認識を持って受け入れられるでしょうか。

主要項目の取り組み内容が具体性に乏しすぎる

産業・経済では、市長によるトップセールス、「ふくろい産業イノベーションセンター」における中小企業支援、農業ではICTを活用した生産性向上、観光資源として新たに「海」の活用など。教育・子育てではICTを活用した教育の推進と、保育需要高まりへの対応など。健康・福祉では、健康寿命日本一を目指しまず健康寿命県内1位を目指して取り組むなど。安全・安心では、地域防災訓練を実践的で効果の高い訓練を実施するなど。文化・スポーツでは、中学校の休日部活動の段階的な地域移行に向けての外部指導員の確保など。市役所機能では、浅羽支所の利活用など。それぞれ取り上げていますが、ICTへの過度な期待やそのどれも説明が不十分で、具体策に乏しくその実現が危ぶまれます。

大場市長には現場・現状をしっかりと把握するとともに、より具体的な提案と発言を望みます。

一般質問の実施状況

6月議会の通告者は14人で、改選後の初議会であり多くの質問者がありました。一般質問実施は議員の権利でもあり、責務でもあります。私は議員の時には欠かさず取り組んできました。

私は常々「新人議員は1期の間、毎回取り組むべきでありそれが勉強になる」と言い続けてきました。新人議員、元職議員が取り組まなかった理由は何なのでしょう。立候補した真意が問われます。

袋井市議会では慣例として正副議長、監査委員は行わないとしていますが、今回は監査委員の大庭議員も取り組みました。今議会は新市長が誕生し、その政治姿勢を明らかにすることは議員にとって重要な責務であったはずではないでしょうか。

各議員の一般質問からピックアップ

ごみ袋有料化、水道・下水道料金値上げ

大庭通嘉議員が取り上げました。有料化でごみ袋にごみ処理費用1ℓに1円上乗せし、30ℓ袋では現行1枚9円が39円に引き上げとなります。(裏面に続く)

20枚入りが180円から780円となり、一般家庭で約年間約6000円の負担増になる試算されています。水道料金は平均11.4%の引上げ、下水道料金は20%引き上げるといふものです。大場市長は市民の理解を求めて実施していくと答弁しています。

私は「ごみ減量化特別委員会」の委員として提言書の取りまとめに関わりました。ごみ袋有料化がごみの分別促進・減量化に効果があるとしても、その実施には市民の理解が前提であり慎重に進めるべきと主張してきました。

※今回の実施は市民への丁寧な説明に欠け拙速で、県下一番高い負担導入への理解を得られるとは思えません。負担額、導入時期を含め、慎重に判断すべきです。

さらに、これらに加えて来年度(令和4年度)から国民健康保険税の段階的改定も予定されています。これら合わせると市民には大変な負担増となります。

私は、昨年11月の会派代表質問で、コロナ禍の下で実施しているのか質問し、原田前市長は先送りの判断を示しました。現在も新型コロナの感染は終息せず、コロナ禍で市民の暮らし向きも回復していません。現在も実施する環境にないことは明らかです。

河川愛護活動の市民負担軽減

大庭通嘉議員が取り上げました。現在、市全体で120万㎡の草刈りを実施。その内の7割の83万㎡を自治会で、3割の37万㎡を市が実施しています。

市は、今後5年間で市は職員を1名増員5名にし、自治会の実施面積を60万㎡に削減すると答弁しました。

※これから高齢化がますます進展し、さらに負担感が増してきます。市は更に取り組みを促進し、住民負担の軽減を図るべきです。

放課後児童クラブの待機児童解消

鈴木賢和議員が取り上げました。令和3年度の申込は1,211人と前年より108人減少しています。しかし、一部の学校では増加して、開設場所の確保、支援員不足などで袋井南小、山名小で42名が待機となっています。市から今後支援員の処遇改善と運営の民間への委託を検討するとの答弁でした。

※働く女性にとって保育所の待機児童解消と同様に、放課後児童クラブの入所待機児童の解消は切実な要求です。支援員の確保には以前から苦勞しており、他市との人材の奪い合いとなっております。処遇改善は当然のことですが、支援員不足を民間委託で解消を図るとするのは問題です。民間委託は保育の質を保てるか疑問です。市が、保育の質をどう担保するのか制度設計を含め、慎重な検討が必要と考えます。



新磐田スマートインターチェンジの開設

鈴木弘睦議員が取り上げました。磐田市敷地地区に7月17日の開設が予定されています。本スマートインターは、新東名初の本線直結型で、下り線の平面交差点にはラウンドアバウトを設置し、経済性に優れ、事故抑制・減少につながるとしています。磐田市は、開設により周辺の工業団地直結による企業集積の促進、雇用の創出、搬送時間短縮による地域医療サービスの向上などの効果を期待しています。計画交通量は1日1500台、車長16.5mのトレーラーも通行可能となります。大場市長は、開設による本市への効果については今後の状況を注視していくとの答弁にとどまりました。

※三川地区は磐田市敷地地区と隣接し、10分程でアクセスできるようになり利便性が格段に向上します。新しい玄関口ができ、三川地区の西山も含め市北部の工業団地開発に弾みがつくと思われます。このチャンスを積極的に生かすべきです。



保育所等利用待機児童数は2人に

袋井市は、令和3年4月1日現在の待機児童数(国定義)が昨年より31人減少し2人となったと5月7日に発表しました。保育所等への申込者数は1,929人(昨年より67人増)、このうち保育所等に入所したのは1829人(前年比178人増)に。入所できなかった児童100人のうち、認可外保育施設への入所が11人、幼稚園の預かり保育利用が28人、育児休業中が9人、このほか、国の待機児童の定義にあたらぬ特定園のみの希望が50人でした。



袋井市は待機児童解消に向け、令和2年度には若草幼稚園と浅羽東幼稚園を認定子ども園に移行させ126人の定員を増やし、認可保育園1園と初期模保育施設7園の新設と移行を支援し186人の定員を増やし、合わせて312人の定員を拡大しました。

※国の定義から外れた、保育園を希望しながら入所できなかった児童100人は隠れ待機児童といわれます。昨年の隠れ待機児童数は県下最多の178人もいて、幼稚園の預かり保育等の利用で我慢しています。条件を問わず、保育園を希望している人すべてが利用できるよう定員をさらに増やすよう改善していくべきです。

ご意見、要望・質問をお寄せ下さい
高橋美博 大谷245 ☎48-6100 wbs35910@cy.tnc.ne.jp
<http://yoshihiro-takahashi.jp/>